

# 調べる時の心構え — 本物を見る・危険をさける・マナーを守る

この本では、各テーマの説明と合わせて、実際に見たり調べたりするための場所や問い合わせ先などを紹介しています。ここでは、自分で何かを調べる時の心構えを考えてみましょう。

川で行われた大きな工事

川につながる  
心だんの暮らし

川につながる農業

川につながる漁業や工業

付録

## 1. 百聞は一見に如かず … 「知る」と「わかる」とは大ちがい



いろいろなダム。左上が戸蔭別川第8号砂防えん堤、右上が、ポントムラウシ川の砂防えん堤、左下が札内川ダム、右下が糠平ダム。

テレビや本やインターネットなどで、映像や知識を得ても、わかったことにはなりません。この本を読んでも同じです。

本に書いてあることでも、書いた人が「かんちがい」しているかも知れません。書いた人の「好み」に、かたよっているかも知れません。書いた時は本当でも、あなたが読む時には変わっているかも知れません。

右の写真を見てください。写真でも、撮った角度や近づき方で、まるでちがって見えるものです。

左の写真を見てください。左上が戸蔭別川第8号砂防えん堤、右上がポントムラウシ川の砂防えん堤、左下が札内川ダム、右下が糠平ダムです。

と説明されると、4つのダムやえん堤のことがわかったような気がするかも知れません。では、それぞれどれくらいの大きさか、わかりますか？ 戸蔭別川第8号砂防えん堤で高さ21m、札内川ダムで高さ114m、糠平ダムで76mあります。と、いわれて、どのくらいの大きさかわかりますか？ いくら、写真やことば、数字などで説明されても、見るまではわからないものです。



このページ左上4つのダムの内、2つのダムを別の角度から近づいて撮影した写真。それぞれのダムかは、左下の写真の解説で。



左が札内川ダム、右が糠平ダム。右上の写真は、赤いわくの部分をそれぞれ大きくしたものです。

ですから、できる限り本物を見てください。本物にふれてください。

もし、遠くて見ることができなければ、近くに同じようなものはないか、探してください。

昔のもので今はなくなっても、その場所に出かけて行きましょう。あとが残っていないか探してみたり、その場所で想像をふくらませてみてください。あるいは、見たことがあるおとなの人がいたら、話を聞いてください。

こうした努力をした上で本などを見れば、知識に、はば広さやあくゆきが出ます。さらに、本などのすばらしさにも、気がつけるようになります。できるだけ本物に近づいてください。

## 2. 本物は「危険」である

できるだけ本物に近づくことは大切です。しかし、絶対に忘れてはいけないことがあります。

それは、本物に近づくということが、危険なことだ、ということです。

家庭科の本を見ていてもケガはしませんが、包丁やナイフで料理をすれば、ケガをする危険があります。

よそ見をして道を歩けば、車にはねられて死ぬことさえあります。ヤブを歩けば、スズメバチの巣をけとばし、痛い思いをするかも知れません。

川に近づけば、岸ですべて転んでケガをする。流れに足を取られて転び、あるいは水に流され、あわてている内に水を飲んでおぼれ死ぬ、ということもあります。

ダム見学の時、ふざけていて高いところから落ちれば、これも死んでしまうかも知れません。

絶対安全に本物に近よる方法は、ありません。

最も大切なことは「どんな危険があるかを知ること」です。

そのためには「よく見ること」です。人間、目を開けていても、横や後、上や下のことは見るこ

とができません。何か物があれば、その向こうはわかりません。

あるいは、前にあるものでも、別のことに夢中になっていれば目に入らなくなってしまいます。

見えないところがあることに気がつく、それが「見る」ということのポイントです。同時に音で危険を知ることでも大切です。

そして「危険(らしいこと)」を見つけたら、あわてず、そこからはなれること。どんな状態になっても、必ずどこかに逃げ場所があります。あわてて、危険を大きくしないように。



ある水路のようす。ここにはどんな危険があるのだろうか？

## 3. マナーを守る

特に、人にものをたずねる時や見学する時には、感謝の気持ちを忘れないことが大切です。また、相手の時間をうばうことなので、相手の都合を考えなければなりません。

そうした思いを、形に表すことが「マナー」です。

基本は「すみません」で始めて、「ありがとうございます」で終わるということです。相手がいそがしそうなら、声をかけないことも必要でしょう。

通行する人のじゃまをしたり、勝手に人の土地に入ったり、人のものをこわしたりよごしたりしないことは、マナー以前のあたりまえのことです。

### 電話マナーの例

- 電話で相手が出たら  
「私(ぼく)は、〇〇学校〇年の〇〇(名前)と、もうします。」  
「今、総合学習の時間で〇〇について調べているのですが、お話をうかがってもよろしいでしょうか。」
- OKが出たら、まず聞きたいことをかんたんに説明する  
「ありがとうございます。うかがいたいことは3つあります。1つは〇〇について、2つめが〇〇について、3つめが〇〇についてです。」
- その後1つ1ついいねに、しかし短くまとめて聞く
- そして答えてもらったあと  
「わかりました。おいそがしいところ、大変ありがとうございます。失礼いたします。」
- 相手のところに行きたい時  
「今、総合学習の時間で〇〇について調べています。そちらにうかがってお話を聞きたいのですが、よろしいでしょうか。」
- OKが出たら  
「〇月〇日〇曜日の午後を考えているのですが、ご都合は、いかがでしょうか。」
- 相手の都合に合わせた上で  
「では、〇月〇日午後〇時にうかがいます。よろしくお願いします。」

※ 基本的には、先生などおとなの人に、許可を取ってもらってから話す。  
※ 子どもはこれほど敬語を使う必要がないかもしれないが、一例として。

川で行われた大きな工事

川につながる  
ふだんの暮らし

川につながる農業

川につながる漁業や工業

付録